

「環境価値」の創造

環境マネジメント

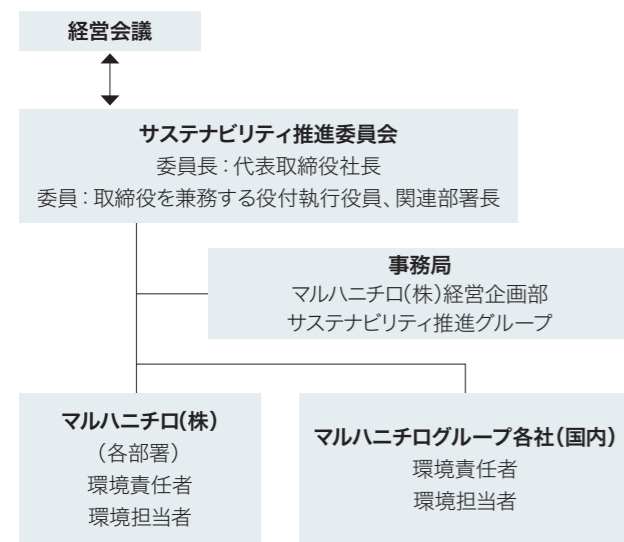
豊かな自然の恵みを受けて事業を営むマルハニチログループでは、地球環境と共存できるビジネスモデルを構築するため、さまざまな取組みを推進しています。「サステナビリティ中期経営計画」では、「地球温暖化対策」「循環型社会の構築」「海洋資源の保全」の3つの重点課題を掲げています。

マネジメント体制

■ マルハニチログループ環境経営マネジメント体制

マルハニチログループでは、2018年度に新設した「サステナビリティ推進委員会」でグループ環境経営全般の企画立案や目標設定、およびグループ各社の活動を評価するとともに、各グループ会社には環境責任者・環境担当者を配置し、各社の事業特性に合わせた活動に取り組んでいます。

マルハニチログループ 環境経営マネジメント体制図



マネジメント状況

■ ISO14001の認証取得状況

マルハニチログループでは、環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得しています。2019年4月現在、国内外生産拠点を中心に、6企業でISO14001を取得しています。

マルハニチログループ(国内)ISO14001取得企業一覧 (2019年4月1日時点)

企業名	事業所
マルハニチロ株式会社	本社(生産管理部)、化成バイオ事業部 生産グループ(森、宇都宮)、夕張工場、新石巻工場、大江工場、白鷹工場、群馬工場、宇都宮工場、広島工場、下関工場
株式会社マルハニチロ山形	—
株式会社マルハニチロ九州	—
ニチロ畜産株式会社	本社、札幌工場、名寄工場、十勝工場、発糞物流センター
株式会社ヤヨイサンフーズ	生産本部、清水工場、九州工場、長岡工場、気仙沼松川工場
株式会社マルハニチロ北日本	生産管理部、富良野工場、釧路工場、森工場、青森工場

環境監査

マルハニチログループでは、工場から排出される排水の法令基準の逸脱、保管されている薬品・油の漏洩、廃棄物の不適切処理をリスクと捉え、管理体制の強化を図っています。そこで、マルハニチロ(株)経営企画部は、2016年度より、各企業の環境法令の遵守状況をより詳細に確認するため、環境監査を実施しており、3年間で計72拠点の監査を実施しました。

2019年度も引き続き環境監査を実施し、環境法令遵守の徹底を図っていきます。

2016年度	6拠点
2017年度	33拠点
2018年度	33拠点

環境教育

マルハニチログループでは、従業員一人ひとりの環境への意識を高め積極的な行動を促すために、研修やグループ内啓発活動に力を入れており、従業員を対象とした環境法令の説明会を定期的に開催しています。2018年度は、グループ内の廃棄物処理の実務担当者に向けた法令説明会を開催しました。2019年度も、グループ内の廃棄物処理の実務担当者に向けた法令説明会を計画しています。

2018年度に開催した環境法令説明会

説明会名	参加人数
廃棄物処理法説明会(基礎編)	76名
廃棄物処理法説明会(応用編)	40名
廃棄物処理法説明会(現地確認編)	20名

また、グループ役職員との情報共有ツールであるイントラネットを通じて、グループ内外の環境関連の情報を提供しています。環境問題に関する情報を「サステナブル通信」にまとめ毎月発信しており、従業員の環境に対する意識向上を図っています。

「環境価値」の創造

地球温暖化対策

サステナビリティ中期経営計画では、パリ協定等の社会的な動向を加味し、CO₂排出量の削減目標を定め、新たな省エネ設備の導入やエネルギー効率の改善、ノンフロン冷凍機への転換など、環境投資を積極的に進めていきます。

サステナビリティ中期経営計画

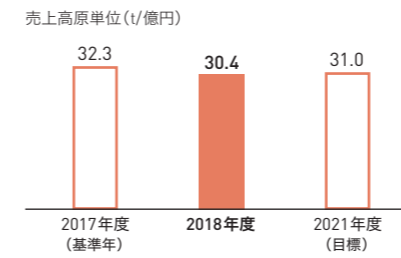
重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
地球温暖化対策	CO ₂ 排出量を削減	2021年度までにCO ₂ 排出量を売上高原単位で2017年度比4%以上削減	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー設備の増強 エネルギー効率の改善 ノンフロン冷凍機への転換 電気使用量の削減 重油・ガス使用量の削減

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(WEBサイト)に掲載しています。

CO₂排出量の削減

マルハニチログループは、高効率ボイラーや高効率冷凍機、その他エコカーやLED照明といった設備導入等に取り組み、2018年度は国内グループ全体の売上高原単位CO₂排出量は30.4トン/億円、前年度比で1.9トン/億円(5.9%)の削減となりました。

CO₂排出量の目標と進捗



(注)対象は国内グループ企業

工場における最新鋭の省力化・省エネ設備の導入

2011年3月に発生した東日本大震災による被災のため移転したマルハニチロ(株)新石巻工場には、製造用各種省力化機器の他、原料、資材を定位置まで運搬する無人搬送車など最新鋭の設備が導入されています。その他にも、工場内すべての照明のLED化、過熱蒸気フライヤーや冷凍機も最新の省エネ型に刷新しています。さらに、これらのエネルギー使用状況を一括して管理することが可能



無人搬送車

エネルギー見える化システムも導入しています。

スパイラルフリーザー用冷凍設備の自然冷媒化

ニチロ畜産(株)札幌工場では、2018年度、ハンバーグ・介護食ラインのスパイラルフリーザー用冷凍設備をアンモニアとCO₂を採用したノンフロンタイプに更新しました。本事業は、環境省の「脱フロン・低炭素化社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入加速化事業」として採択されています。本事業の成果として、年間464トンのCO₂排出量の削減を見込んでいます。



ニチロ畜産(株)札幌工場
ノンフロン冷凍機

「カーボン・ニュートラル」の取組みを推進

オーストラル・フィッシュリーズ社(オーストラリア)は、西オーストラリア州にある小麦地帯での植樹プログラムを推進することで「カーボン・ニュートラル」認証を取得しています。このカーボン・ニュートラル(CN)の取組みが、水産資源の安定供給につながるさらなるステップと位置づけ、ブランドロゴ『CN fish』を商品に展開し、環境配慮商品の拡販を進めていきます。



※オーストラル・フィッシュリーズ社は、事業活動および天然魚と天然エビのカーボン・ニュートラルについて、オーストラリア政府の認証を受けています。

誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(WEBサイト)をご覧ください。

「環境価値」の創造

循環型社会の構築

サステナビリティ中期経営計画では、「廃棄物の削減と再生利用率の向上」のために廃棄物排出量、廃棄物等の再生利用率の数値目標を定め、製造トラブルの削減や廃棄物の有価物化などの取組みを進めています。

サステナビリティ中期経営計画

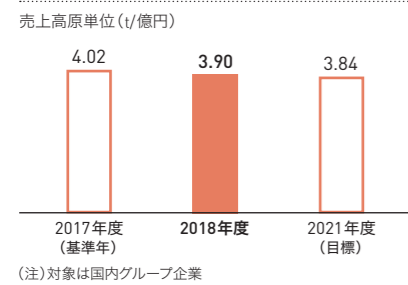
重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
循環型社会の構築	廃棄物の削減と再生利用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度までに廃棄物排出量を売上高原単位で2017年度比4%以上削減 2021年度までに廃棄物等の再生利用率99%をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> 製造トラブルの削減 原材料・資材・商品の廃棄削減 廃棄物の有価物化

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(ウェブサイトに)掲載しています。

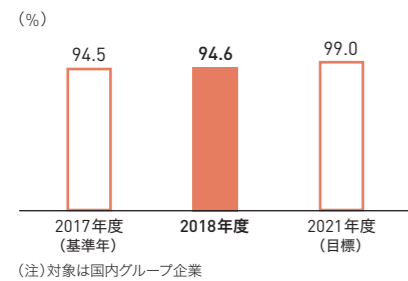
廃棄物の削減

マルハニチログループでは、工場を持つ企業が中心となって工程改善による製品不良の抑制やメンテナンス強化による設備起因の廃棄物の発生抑制、資源化などに取り組まれました。この結果、2018年度は国内グループ全体の売上高原単位廃棄物排出量は3.90トン/億円となり、前年度比で0.12トン/億円(3.1%)の削減となりました。また、廃棄物等の再生利用率は94.6%となり、前期比で0.1ポイントの向上となりました。

廃棄物排出量の目標と進捗



廃棄物等の再生利用率の目標と進捗



製造トラブルの削減

■ 新生産管理システムの導入

マルハニチロ(株)直営工場では、生産計画から製造・検査実行、品質管理、損益管理、設備管理など、一連の工場全体の業務を見える化・効率化するために、2016年度より新生産管理システムを順次導入しています。本システムにより、調合ミス等のトラブルが減少し、原材料や製品の廃棄物が削減されただけでなく、ペーパーレス化にもつながっています。

マルハニチロ(株)直営工場での新生産管理システム



原材料・資材・商品の廃棄削減

■ 商品容器・包装における省資源化への取組み

マルハニチログループでは、環境負荷の低い容器の開発に向けた取組みを行っています。容器の軽量化を行うことで、省資源はもとより、重量の軽減による物流時のCO₂排出量の削減や、梱包サイズの小型化による配送効率のアップ

などの効果が見込まれます。今後も継続して、省資源に配慮した容器包装の開発に取り組んでいきます。

廃棄物の有価物化

■ バイオガス発電の有効利用

マルハニチロ(株)下関工場では、2013年度にバイオガス発電設備を導入し、食品廃棄物として排出されていた廃シロップや食品残渣をバイオ原料へと有効活用しています。バイオ原料として処理できるようになったことで当工場から排出される廃棄物が大幅に削減され、2018年度は計870トン削減することができました。引き続き、廃棄物の削減・減容化に努めていきます。



下関工場のバイオガス発電設備

■ 食品残渣のミール化

広洋水産(株)では、サケ、イワシ、サンマ、サバ等を使用し、刺身、フィレやイクラ、缶詰等の製品を生産しています。製品製造時には、原料魚の中骨・内臓等が食品廃棄物として排出されていましたが、2017年6月、廃棄物削減・資源化のためにミール工場を稼働させました。なお、このミール工場稼働によって1日50トンの原料の処理が可能になりました。



原料となる中骨・内臓等



製品(フィッシュミール)

■ フロスの資源化

(株)マルハニチロ北日本 釧路工場は、主に、サケ、サンマ、イワシの缶詰を生産しています。サンマやイワシの缶詰製造時には、油分が多い「フロス」と呼ばれる懸濁物が多く発生し資源化できずに産業廃棄物として処理していましたが、2013年度「フロス」削減と資源化のため、高効率の脱水機を導入しました。本処理により、肥料原料として再利用することが可能となり、2018年度は約680トンの産業廃棄物の削減につながりました。



脱水後のフロス

■ 紋甲イカ軟骨の有効活用

マルハニチロ(株)水産第二部では、これまでは食用に向かず廃棄されてきた紋甲イカ軟骨に含まれているコンドロイチンに着目し、コンドロイチン原料として販売・有効活用することができました。この取組みにより、2018年度、年間12トンの廃棄物削減(前年度比)につながりました。引き続き、その他未利用資源についても商品化の検討を進めています。

誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(ウェブサイトに)をご覧ください。

「環境価値」の創造

海洋資源の保全

持続可能な漁業・養殖認証(MSC・ASC)をはじめとする輸入水産物のトレーサビリティの強化は、水産物をビジネスのコアとして扱う企業にとって重要な課題です。加えて、完全養殖クロマグロの生産量の増加と他魚種への拡大、養殖技術開発体制の強化、循環型陸上養殖の事業化なども中期目標として進めています。

サステナビリティ中期経営計画

重点課題	中期目標		行動計画
	項目	目標	
海洋資源の保全	持続可能な水産資源の利用を推進	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な漁業・養殖認証の取得を推進 IUU(違法、無報告、無規制)漁業廃絶への取組を強化 完全養殖^{※3}事業の拡大 環境配慮型養殖技術への取組を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な漁業・養殖認証(MSC^{※1}・ASC^{※2})取得水産物の取り扱いを推進 持続可能な養殖認証の取得を推進 輸入水産物のトレーサビリティ確認の強化 国内外ダイアログへの参加 完全養殖クロマグロの生産量アップ 増養殖技術のR&D体制の強化

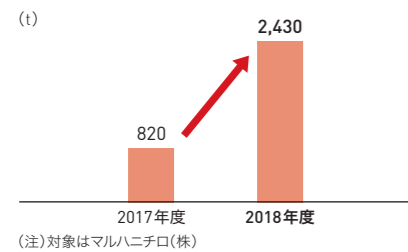
※1 MSC認証：MSC (Marine Stewardship Council、海洋管理協議会)による、天然の水産物を対象にした漁業に対する認証制度。環境にやさしい持続可能な漁業であることの証。
 ※2 ASC認証：ASC (Aquaculture Stewardship Council、水産養殖管理協議会)による、養殖に対する認証制度。環境と人にやさしい責任ある養殖業で生産された水産物に認められる証。
 ※3 完全養殖：人工ふ化させた仔魚を親魚に育て、その親魚が生んだ受精卵を成魚に育てること。

※サステナビリティ中期経営計画の進捗状況についての詳細は、サステナビリティレポート(WEBサイト)に掲載しています。

MSC「海のエコラベル」付き製品の取扱量の増加

マルハニチログループでは、MSC・ASC認証の水産物の取り扱いを積極的に進めています。マルハニチロ(株)のMSC「海のエコラベル」を表示した家庭用調理冷凍食品などの取扱数量は、2018年度約2,430トンとなり、2017年度の820トンより大幅に増加しました。ASCロゴを表示した製品の取扱数量は約70トン(期間:2018年1月1日～2018年12月31日)となっていますが、今後さらに取り扱いを推進していきます。

MSC「海のエコラベル」を表示した家庭用調理冷凍食品などの取扱数量の推移



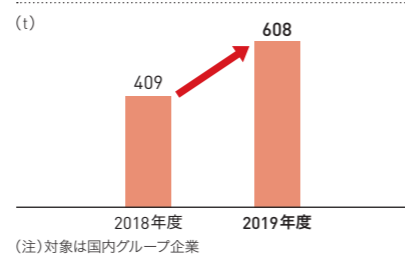
ブリの養殖において「ASC養殖場認証」を取得

2018年4月に(株)アクアファームが、ブリの養殖において「ASC養殖場認証」を取得しました。また、2019年7月には(有)奄美養魚が、カンパチの養殖において同認証を取得。カンパチにおける「ASC養殖場認証」の取得は、世界初となります。

完全養殖クロマグロの生産量アップ

2019年度より(株)アクアファームでの完全養殖クロマグロ人工種苗専用の養殖場からの出荷が本格化することにより、マルハニチログループ全体での完全養殖クロマグロの出

完全養殖クロマグロの出荷量の推移



荷量は、2018年度の生産量409トンから、2019年度は608トンに増加する予定です。

TOPICS

完全養殖クロマグロ、欧州向け初出荷

マルハニチログループは2018年、EUへの輸出に必要な認証「危害要因分析による衛生管理(HACCP)」を養殖場と加工場で取得し、2019年2月、完全養殖クロマグロを英国に初めて出荷しました。これまで寄生虫アニサキスなどの懸念から実現しなかった欧州への輸出が可能になったことに加え、日欧EPA発効によりEU向けに課せられていた関税撤廃が実現することから、高まる海外でのニーズに応じて完全養殖クロマグロの出荷拡大に拍車をかけています。



クロマグロの水揚げ

TOPICS

グローバルな海洋資源に関するスチュワードシップ「SeaBOS」が本格始動

SeaBOS

SeaBOS (Seafood Business for Ocean Stewardship)は、2016年に世界の最大手の水産企業8社(現在10社)と、海洋・漁業・持続可能性を研究する科学者が、持続可能な水産物の生産と健全な海洋環境を確保するために、科学的根拠にもとづく戦略と活動を協力しながら主導することを目的に設立されたグローバルな取組みです。国連の持続可能な開発目標(SDGs)、特に「目標14 海の豊かさを守ろう」に積極的に貢献するとしています。2018年9月、組織設立と同時に当社社長の伊藤滋が初代会長に指名されています。



マルハニチログループは、水産業界を牽引するグローバル企業の一員として、地球規模での海洋資源の保全と持続的利用、および海洋資源の長期的かつ持続的な価値の創造をめざしていきます。



2019年9月ブーケット(タイ)でのSeaBOS会議参加メンバー ©Thai Union Group

SeaBOS参加企業

- マルハニチロ
- 日本水産
- Thai Union Group
- MOWI
- Dongwon Industries
- Nutreco
- Cargill Aqua Nutrition
- Cermaq
- 極洋
- Charoen Pokphand Foods

2018年5月にはアムスフォールト(オランダ)で第1回担当者レベル会議が開催され、具体的な取組みの協働について話し合いを行い、同年9月には長野県軽井沢町にて第3回会議が行われ、当社の伊藤 滋がSeaBOS初代会長に指名されました。2019年5月にはベルゲン(ノルウェー)にて第2回担当者レベル会議が開催され、各タスクフォースの進捗状況や今後の行動計画案を話し合い、同年9月にはブーケット(タイ)にて第4回会議が行われました。この会議ではSeaBOSの取締役として選任された当社グループのオーストラル・フィッシャリーズ社のマーティン・エクセル(Martin Exel)が全体の進行を行い、持続可能な漁業と養殖管理、海洋プラスチックを含む海洋汚染、気候変動に関連する規制等についての改善の重要性を再確認しました。

「70億人のためのSDGsコミュニケーションとアクション」セミナー

2019年6月に、SDGsの17の目標のロゴデザイナーであるヤーコブ・トロールバック氏(Jakob Trollbäck — スウェーデン出身)の初来日を記念したセミナー「70億人のためのSDGsコミュニケーションとアクション」にSeaBOS会長として当社の伊藤が登壇しました。トロールバック氏からは、シンプルな言語表現、アイコンのわかりやすさを追求しながら世界70億人のSDGsコミュニケーションに貢献するための葛藤の軌跡について語られました。マルハニチロ(株)は、「目標12 つくる責任 つかう責任」「目標14 海の豊かさを守ろう」をテーマに、「食」と「海洋プラスチック」などの観点から活動報告や将来に向けた考え方について示しました。



セミナーに登壇した当社社長伊藤 滋

誌面の都合上、一部の取組みのみを紹介しています。詳しくはサステナビリティレポート(WEBサイト)をご覧ください。